

人事・労務・総務担当者研修

# 伊那食品工業(株)視察 レポート

～社員を幸せにする会社づくり～



人事・労務・総務担当者研修として、12月2日(金)、参加者36名で「伊那食品工業(株)（長野県伊那市）」を視察した。取締役管理本部長 小口知彦氏、総務人事部次長 吉川明氏から同社の事業内容、人材教育・採用などについて説明を受けた。

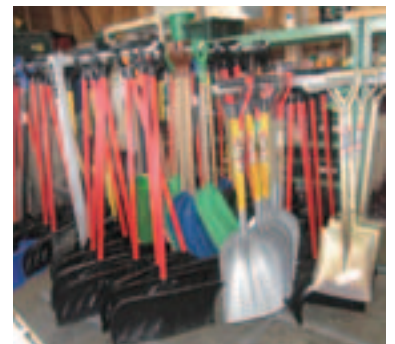
同社は寒天を製造する企業で年商181億円、国内シェア80%を占め、社員数は465名。「社員を幸せにする会社づくり」を常に意識し、様々な取り組みを実践する。「利益は社員を幸せにするための手段であり、目的ではない」と考え、会社の急成長を望まない。以前、健康面で注目された寒天がブームとなった。同社の取引先・顧客からは商品の増産を求められ、社員か



地域住民・社員が利用する「かんでんばばガーデン」内での説明

らも顧客の要望に応えるべきという意見が多数出た。そこで、社員が交代制で生産業務に従事し、増産を行った。売上も伸び好調であったが、社員に疲れが見え始めると目先の売上を捨てて増産を止めた。社員を幸せにするための会社の売上・利益が、社員に負担をかけ始めたからだ。社員の健康を第一に考える同社の姿勢の現れであった。

同社では朝、目にする光景がある。始業時間前に全社員が自主的に30分間実施する同社敷地内の掃除である。掃除する場所が社員に割り当てられるわけではない。しかし、社員がそれぞれ気付いた場所をすすんで綺麗にする。休日まで掃除を行う者、高い木の枝を伐採するため高所作業の資格を取得する者などもある。同社敷地内には社員だけでなく地域住民が訪れ憩う場所「かんでんばばガーデン」がある。本社やこの施設を訪れる人々に良い印象を与えたいという思いが、社員の自主的な掃除に繋がっている。



社員が自主的に行う朝掃除に使われる用具

このように会社と社員が丸となって事業に取り組んだ結果、48期連続の増収増益に繋がった。また、人材採用面では同社の経営への思いに共感した就職希望者が後を絶たない。20名の採用枠に対して800名の応募がある。

社員の幸せを第一に考え、ともに発展していく、伊那食品工業(株)。社員と共有し、ともに築き上げてきた同社の風土は一朝一夕で築けるものではない。しかし、人材採用・教育が難しい現在、長期的視点で会社と社員の間には強い信頼関係を築いていくことが求められる。

お問い合わせ先

福井商工会議所 会員サービス課

TEL 0776(33)8254